

# 学校図書館と小学校、中学校及び高等学校における各教科等の授業との連携についての一考察

古川元視

## 【要旨】

本研究は、令和元年度佐賀県学校図書館夏季合同研修会に参加した小・中・高等学校及び特別支援学校の教職員を対象に、学校図書館と小学校、中学校及び高等学校（特別支援学校含）における各教科等の授業との連携について調査を実施し、その結果を分析考察したものである。

結果は次のとおりである。①学校図書館と授業との連携についての運営方針を立案している学校はほぼ半数である。②学校図書館と授業との連携を行いやすいようなスペース、コーナー、ブックトラック等の設置をしている学校はほぼ半数であり、各学校が努力している。③多くの学校では、学校図書館ではなく、パソコン室にパソコンが設置されている。④人的な連携においては、小学校では学校司書や司書教諭等が多く、中学校や高等学校では図書委員会との連携が多かった。これは、発達段階の違いからであろう。⑤学校図書館を活用した授業においては、国語、社会、総合的な学習の時間が多く、本や資料などを活用できる教科やそれらを活用して課題解決ができる教科と考えられる。⑥学校図書館と授業との連携の課題は、教師間の共通理解、予算や人材の確保が主である。これは学校だけでは解決できず、行政の協力体制などが必要である。

## 【キーワード】

学校図書館と授業との連携

## 1 はじめに

学校図書館の活用について、今最も求められている課題の一つに各教科等の授業との連携がある。本稿では、一つの県全体に勤務する学校司書、司書教諭等に対して、連携がどのように進んだのかを調査し、実態と課題の考察を行う。

### (1) 国の動向

学校図書館については、学校図書館法<sup>1)</sup>第2条において、「学校の教育課程に寄与する」というのが基本的なものである。そして、主に次のような国の改善策がある。

① 学校図書館の一部改正<sup>2)</sup>（平成9年）

平成15年4月から12学級以上の学校に司書教諭を必置とする。

② 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画<sup>3)</sup>（平成14年）

③ これからの学校図書館の整備充実について（報告）<sup>4)</sup>、学校図書館の整備充実について（通知）<sup>5)</sup>（平成28年）

この中の学校図書館ガイドラインでは、「校長が学校図書館の館長としての役割を担う」としている。「学校は、教育課程との関連を踏まえた学校図書館の利用指導・読書指導・情報活用に関する各種指導計画等に基づき、計画的・

継続的に学校図書館の利活用が図られるよう努めることが望ましい」ともある。

#### ④ 新学習指導要領<sup>6)</sup>における学校図書館の考え方

全ての校種の総則において、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童(生徒)の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童(生徒)の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること」としている。このことは、全ての教科等において、学校図書館の利用が求められている。しかし、次のような調査において実態や課題が浮き彫りになっている。

#### (2) 学校図書館の実務調査及び読書の実態と課題

学校図書館協議会が行った2019年度学校図書館整備施策に関するアンケート<sup>7)</sup>によると次のような実態がある。

- ① 小学校1校当たりの平均図書費は、433,051円、中学校1校当たりの平均図書費は、646,308円である。
- ② 学校司書配置状況は、以前から学校司書を配置しており、2018年度と同額または増額した市町村が61.9%である。雇用形態は、臨時・嘱託等が86.3%、正規の職員が1.4%である。
- ③ 自治体による学校図書館担当教諭の研修状況として、年1回以上行っているのは31.9%、研修を行っていないのは41.9%である。
- ④ 自治体による学校司書の研修状況として、年1回以上行っているのは、56.8%であり、全く行っていないのは、23.3%である。

このように、各小中学校の図書費は100万円にも届かず、ほとんどは臨時・嘱託職員である。学校図書館の専門職ではない学校司書であるにも関わらず、専門的な研修が実施されていない状況がある。

また、2019年度「学校読書調査」<sup>8)</sup>の結果については、次のグラフの通りである。ここ10年

間の5月1か月間の平均読書冊数を見ると、小学生は、10冊程度を、中学生は4冊程度を、高校生は1冊程度を推移している。

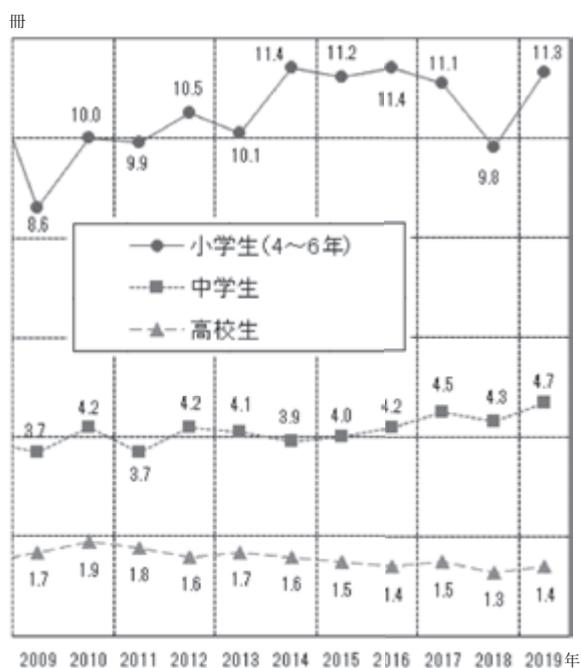


図1 2009～2019年までの5月1か月間の平均読書冊数の推移

過去10年分の不読者(0冊回答者)を見ると、下のグラフの通りである。高校生は、約半数が不読者である。

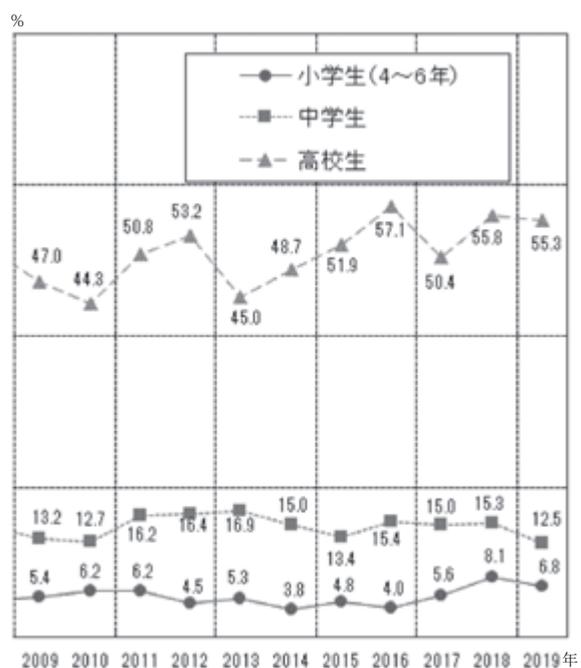


図2 過去10年分の不読者の推移

このように小学生～高校生まで、よく読書をしているとは言えない。

また、小さい頃の大人の働きかけによって読書に影響があるのではないかという調査も行っているが、教員や学校司書があまり本をすすめていないという結果も報告されている。児童生徒の読書時間が十分確保されていないことや教師自身の読書が不十分であることが理由に挙げられている。

### (3) 小・中・高等学校における学校図書館と授業との連携の在り方に関する先行研究

学校図書館と授業との連携の在り方についての先行研究は、次のようなものがある。

学校図書館4月号<sup>9)</sup>では学校図書館を授業で活用することを提案している。その中では、学校図書館を計画的に利用する授業計画が必要であり、司書教諭はそれを調整し、学校司書が必要な資料を準備する連携が重要であると述べている。学校図書館と児童生徒を繋ぐのは教員と司書教諭と学校司書であるとも提言している。

小川三和子(2010)<sup>10)</sup>は、「教科学習に活用する学校図書館」の中で、授業で学校図書館を活用する3つの方法を挙げている。1つは、教師が一斉指導の授業の中で学校図書館メディアを掲示する場合である。2つ目は、児童が自らの課題をもち、その課題を解決するために学校図書館メディアを活用する場合である。3つ目は、児童による自発的な利用である。

全国学校図書館協議会北欧学校図書館研究視察団(2007)<sup>11)</sup>及びオーストラリア学校図書館研究視察団(2010)<sup>12)</sup>においては、学校図書館の先進国である北欧やオーストラリアの学校図書館の在り方を報告している。特に、デンマークの教育リソース・センターは、学校図書館を支援する中央的なセンターとして設置されている。それらの国の学校図書館は、授業における課題解決学習を支える学校図書館になっており、学校図書館との連携計画表や学校図書館スキル指導、

資料収集の相談などが行われており、授業と密接な関係を築いている。

井上(2013)<sup>13)</sup>は、「思考力・読解力アップの新空間!学校図書館改造プロジェクト 図書館フル活用の教科別授業アイデア20」において、本を活用した授業の困難さとして、〔1〕教室及び図書館の運営上の困難、〔2〕テキスト選択の困難、〔3〕読解力の困難、〔4〕評価の困難を挙げ、58項目を指摘している。それを踏まえて次のような授業への活用方法と学校図書館改造プロジェクトチェックシートを提案している。学校図書館プロジェクトにおいては、改造プロジェクトチェックシートに基づいて3校の小学校が、学校図書館を劇的に改造し、学校図書館と授業がより連携を密にすることができている。

#### 授業への活用方法

- 1 読書活動を充実させる教育課程と学校図書館の考え方のポイント
  - (1)本を読む楽しさを教えよう
  - (2)本を読む自由を獲得するために環境整備を行おう
  - (3)各教科等で図書館を利用しよう
  - (4)文章と本を活用する単元展開と授業改善しよう
  - (5)児童・生徒が活用しやすい学校図書館に改造しよう
  - (6)学校図書館で本を読む滞在時間を長くしよう
  - (7)学校図書館で授業をしよう
- 2 教育課程と学校図書館の読書活動の支援のポイント
  - A 学習者の読書活動
    - I 文章から本へ発展させて読む
    - II 課題に基づいて本を読む
  - B 教諭・司書・保護者の読書活動の支援
    - I 本の準備をする
    - II 検索の支援をする
    - III 図書館・文化センターの利用指導
    - IV 文化センターの利用指導
    - V 司書及び図書館での読書活動の支援

#### 学校図書館改造プロジェクトのチェックシート

- I 学校図書館の現状と課題(改造前)
  - 1 学校図書館の運営と方針
    - (1)学校図書館の方針
    - (2)学校図書館の環境と設備(学校図書館の場所、

- 配架、蔵書等)
- (3)学校図書館利用の実態
- (4)学校図書館の課題について
- Ⅱ 改造後の学校図書館の実態
- 2 学校図書館改造のポイント（改造のための考え方と改造点）
- (1)改造にあたっての運営方針
- (2)学校図書館改造のポイント
- 3 学校図書館改造の実際
- (1)学校図書館の構成
- 4 学校図書館の活用の工夫
- (1)人的配置とその仕事内容について
- (2)各教科等における活用について
- (3)日常的読書活動における活用について
- 5 家庭・地域での取り組み
- (1)家庭読書における活用
- (2)地域との連携における活用
- 6 改造による変化
- (1)学力について
- (2)生徒指導（子どもの様子）について
- (3)図書館の利用（開館時間、利用人数や利用率、児童の滞在時間について）
- (4)PTA・地域の反応について
- (5)その他
- 7 今後の課題

このように、全国的な調査や先行研究は存在するが、一つの県に特化して学校図書館と授業との連携について調査したものは見当たらない。そこで、今回学校図書館と授業との連携について実態把握をするために調査することにした。

## 2 調査の目的

次のようなことを目的として調査を行った。

- (1) 学校図書館と授業がどのような連携を図っているのか解明する。
- (2) 学校図書館が授業と連携がしやすいような環境になっているのか解明をする。

## 3 調査の方法

調査については、先述した井上<sup>14)</sup>の「学校図書館改造プロジェクトチェックシート」の観点に基づいて、適応した。

### (1) 調査対象

令和元年度佐賀県学校図書館夏季合同研修会

### 参加者

- ① 小学校司書教諭等128名
- ② 中学校司書教諭等50名
- ③ 高等学校司書教諭等19名
- ④ 特別支援学校司書教諭等4名 計201名

### (2) 調査の実際

令和元年度佐賀県学校図書館夏季合同研修会参加者に合同研修会の終了後、アンケートに回答してもらった。（提出は自由）

### (3) 調査内容

調査内容としては、次のようなアンケートである。（アンケート問題のみ抜粋）

#### 授業と学校図書館との連携についてのアンケート

- 1 学校図書館の運営方針を授業との連携の観点で立てていますか。
- 2 学校図書館におけるスペース（一人で読むスペース、読書スペース、調べるスペース など）は、授業がスムーズにできるようなスペースになっていますか。
- 3 書架の配置は、授業で使う本を探しやすい配置にしていますか。
- 4 授業で本を探しやすいように、書架に番号を付けていますか。
- 5 本は、どのように配置していますか。
- 6 5でイ（「NDCとそのほかの配置（コーナー）を使用している。」）に答えた方に聞きます。どのようなコーナーがありますか。
- 7 教室で本を使った授業ができるようにブックトラックなどがありますか。
- 8 学校図書館には、授業と関連できるようにどのような掲示物がありますか。（複数回答可）
- 9 情報スペースには、パソコンは配置していますか。
- 10 9で「はい」と答えた方は、どのように活用していますか。（複数回答可）
- 11 授業と学校図書館との連携において、次のような人がかかわっていますか。（複数回答可）
- 12 11で○を付けた方は、互いに連絡を取っていますか。
- 13 12で「取り合っている」と答えた方は、どのように連携を図っているのか書いてください。
- 14 各教科等における学校図書館の活用計画はありますか。
- 15 各教科等において授業を学校図書館で行った実践はありますか。
- 16 15で「ある」と答えた方は、代表的な事例を数例書いてください。

- 17 各教科等で本を使った授業を学級で行っていますか。
- 18 17で「ある」と答えた方は、どのような教科ですか。
- 19 本や資料等を使って授業ができいるようなパンフレットやモデルにできる資料集などを学校図書館にそろえていますか。
- 20 児童生徒の作文等、モデルとなるような作品集等を置いていますか。
- 21 学校図書館と授業との連携において、どのようなことが課題ですか。

#### (4) 調査時期

令和元年8月22日(木)

### 4 小学校における学校図書館と授業との連携についての調査の結果と考察

#### 4.1 学校図書館の運営方針について(質問1)の調査結果と考察

##### 1 質問の趣旨

学校図書館の運営方針は、ほとんどの小学校で作成されている。しかし、学習指導要領にも示されているように学校図書館と授業の連携を図ることが重要である。したがって、従来の運営方針だけではなく、授業とどのような連携を図るかという運営方針でなくてはならない。

##### 2 回答の傾向と考察

	作成している	作成していない	無回答
率(%)	48	41	11

授業との関連で運営方針を立てている学校は、約半数である。来年度は、新学習指導要領の全面実施及び新しい教科書の配布の年度でもある。今年度末には授業との連携を踏まえた新しい学校図書館の運営方針が決定されるであろう。

#### 4.2 学校図書館におけるスペースについて(質問2)の調査結果と考察

##### 1 質問の趣旨

従来の学校図書館では、館内を目的別にスペースに区切って使うという発想はあまりな

かった。井上<sup>15)</sup>は、学校図書館には、「一人で読むスペース」「読書スペース」「調べるスペース」が必要であると述べている。学校図書館が、読書センター、学習センターと位置付けられていることからそのように考えることが妥当である。

##### 2 回答の傾向と考察

	スペースを設けている	スペースを設けていない	無回答
率(%)	46	53	1

スペースを設けている小学校と設けていない小学校はほぼ同数である。筆者も前任校等において、スペースを設けたが、児童から一番評判が良かったのは「一人で読むスペース」だった。それは、誰からも邪魔されず集中して読書ができるからであった。それ以外にも「英語スペース」「作文スペース」などが必要である。

#### 4.3 書架について(質問3・4)の調査結果と考察

##### 4.3.1 書架の配置について(質問3)の調査結果と考察

##### 1 質問の趣旨

書架の配置も児童が授業で使いやすくしておかなければならない。ほとんどの学校図書館においては、正面、背面、側面に書架が配置されている。先述したスペースを確保するのであれば、書架を工夫し、スペースを確保することもできよう。

##### 2 回答の傾向と考察

	捜しやすい配置にしている	捜しやすい配置にしていない	無回答
率(%)	69	23	8

69%の学校が、授業で本を探しやすい書架の配置になっていると答えており、児童のために努力している様子が伺える。書架の配置も従前の配置に固執することなく柔軟に変えることが求められている。

#### 4.3.2 書架の番号について（質問4）の調査結果と考察

##### 1 質問の趣旨

児童が本を探す時、自分で探すことができるようにしたいものである。しかし、実際には、学校司書に尋ねることが多い。そこで、書架の棚に番号を付けておくと、児童が本を探しやすくなる。

##### 2 回答の傾向と考察

	付けている	付けていない	無回答
率(%)	55	44	1

書架の棚に番号を付けることは手間がかかるが付けている小学校は、55%もある。児童の検索力を付けるためによく努力している。

#### 4.4 本の配置について（質問5・6）の調査結果と考察

##### 4.4.1 本の配置（質問5）についての調査結果と考察

##### 1 質問の趣旨

ほとんどの学校図書館や公立図書館では、本をNDC（日本十進分類法）で配置している。しかし、小学校においては、より授業が展開しやすいようにコーナーも設けたい。

##### 2 回答の傾向と考察

	NDCのみ	NDC+コーナー	無回答
率(%)	17	82	1

NDCとコーナーで本を配置している小学校は82%ととても多かった。授業と連携ができるようにコーナーを設けている。

##### 4.4.2 コーナー（質問6）についての調査結果と考察

##### 1 質問の趣旨

質問5を受けて、具体的なコーナーを問うた。

##### 2 回答率と考察

コーナー名	率(%)
新刊図書案内コーナー	80
学年別コーナー	58

テーマ別コーナー	52
郷土に関するコーナー	48
学校独自のコーナー	20
著者別コーナー	17
グレード別コーナー	0

一番多いコーナーは新刊図書案内コーナーであり、80%もの小学校が設けている。上記以外では、教科書に載っている本コーナー、シリーズコーナー、お薦めの本コーナー、新聞コーナー、戦争の本コーナー、人気の本コーナーが挙げられた。授業と連携しやすいように工夫されている。これら以外にも、宮沢賢治、椋鳩十、新美南吉、レオ＝レオ二などの作者別コーナー、総合的な学習の時間のテーマである「環境」「福祉」などのコーナーも考えられる。

#### 4.5 ブックトラックについて（質問7）の調査結果と考察

##### 1 質問の趣旨

学校図書館と授業との連携において、授業を行う場所を考えると2つの方法がある。1つは、学校図書館で授業を展開する場合、もう1つは学級で本を使って授業を展開する場合である。後者で授業を展開をする場合、学校図書館から本を移動する手段であるブックトラックが必要である。

##### 2 回答の傾向と考察

	ブックトラックがある	ブックトラックがない	無回答
率(%)	65	32	3

ブックトラックがある小学校は65%である。ブックトラックがあると教室で本を使った授業が展開しやすい。

#### 4.6 学校図書館の掲示物について（質問8）の調査結果と考察

##### 1 質問の趣旨

学校図書館で授業を展開するには、学校図書館の掲示物にも工夫が必要だ。学校図書館が学

習センターや情報センターの機能を果たすことを考えると、説明系では図鑑や科学読み物、百科事典などの本の読み方、物語系ではシリーズ、ジャンル別などの本の読み方、本で調べる時や本を読む時の学習の進め方の掲示物が必要だ。また、引用や要約の仕方、パンフレットや新聞などの作成の仕方など学習に関するポスターもあとと便利である。

## 2 回答率と考察

掲示物名	率 (%)
図書館の利用の仕方	75
児童の作品	31
学習に関するもの	22
本の読み方	9
学習の進め方	5

一番多かったのは図書館の利用の仕方である。それ以外でも児童の作品、学習に関するポスター、本の読み方、学習の進め方などがあつた。児童の作品が多かったのは、授業との連携を進める上で重要だ。

## 4.7 パソコンの設置について（質問9・10）の調査結果と考察

### 1 質問の趣旨

学校図書館は、学習センターと情報センターの機能も有している。両センターとしての機能を果たすためには、パソコンが常備されなくてはならない。

### 2 回答の傾向と考察

	設置されている	設置されていない	無回答
率 (%)	18	80	2



	率 (%)
図書管理（貸出含）	14
図書検索	9
情報検索	8
掲示板	0

設置されていない小学校は80%である。しかし、この中にはパソコン室にパソコン常設されているためという回答も含まれている。設置さ

れている小学校では、1台が12校、2台が3校、3台が1校、40台は3校である。

使い方を見ると、図書管理が14%で一番多いが、その他は10%以下である。学校図書館内には、検索等のために、数台は欲しいものである。

## 4.8 学校図書館と授業との連携について（質問11・12・13）の調査結果と考察

### 4.8.1 学校図書館と授業との連携で関わっている人について（質問11）の調査結果と考察

#### 1 質問の趣旨

学校図書館と授業が連携をするためには、連携の中心となる人が必要である。小学校には、担任だけではなく、司書教諭、学校司書などがある。

#### 2 回答の傾向と考察

関わっている人	率 (%)
学校司書	75
図書主任	72
児童図書委員	45
司書教諭	30
その他	10
ボランティア	5
情報教育担当教員	2

学校図書館に滞在している学校司書がやはり一番関わっている。それ以外でも学校図書館の運営の中心である図書主任や司書教諭の割合も高い。意外と多いのが児童図書委員である。その他では、担任、事務補佐、主幹教諭、学年主任、養護教諭が挙げられている。いろいろな職種の人が関わっていることが伺える。

### 4.8.2 学校図書館と授業との連携で関わっている人との連携について（質問12・13）の調査結果と考察

#### 1 質問の趣旨

質問11で学校図書館と授業が連携するための中心となる人と連携を取り、うまく機能しているのかということと、具体的にはどのようなこ

とをしているのかを問うた。

## 2 回答の傾向と考察

	取っている	取っていない	無回答
率(%)	66	17	17



具体例	学校数
図書委員会	12
図書イベント計画	12
調べ学習の本揃え	7
公共図書館からの貸し出し	6
本の選書	4
授業で使う本の情報交換	4
職員会議への提案	3
貸出冊数の確認	2
本の貸し出し	2
本の在庫	1
本の取り寄せ	1
図書館の空き状況	1
アンケート取り	1
先生からの意見聴取	1
図書館だより	1
ボランティア年間計画	1
読書推進	1
読書量	1

学校図書館と授業が連携をするために中心となる人と連携を取り、うまく機能しているのは、66%である。具体例としては図書委員会や図書イベント計画等がほとんどである。

## 4.9 学校図書館の年間指導計画について（質問14）の調査結果と考察

### 1 質問の趣旨

学校図書館と授業を連携させる1つの方法は、授業において学校図書館の本を使うことである。そのためには、各教科等の年間指導計画に、学校図書館との連携の方法などを記載し、計画的に実施していく必要がある。

### 2 回答の傾向と考察

	ある	ない	無回答
率(%)	20	67	13

各教科等の年間指導計画に学校図書館との関連を記載している学校は20%である。来年度からの新学習指導要領に合わせて、各教科等の年間指導計画がどの学校でも作成されるであろう。是非学校図書館との連携という観点を入れてもらいたい。

## 4.10 学校図書館を活用した授業について（質問15・16）の調査結果と考察

### 1 質問の趣旨

学校図書館を活用した授業は、先述したように新学習指導要領においても学校図書館を活用した授業を実施するように推進されている。学校図書館には多様な本があり、学校図書館で授業を行うメリットは大きい。

### 2 回答の傾向と考察

	ある	ない	無回答
率(%)	41	47	12



教科	具体例	学校数
国語	漢和辞典調べ	6
	帯づくり・ポップづくり	4
	乗り物調べ	1
	昔話の紹介	1
	ことわざ	1
	シリーズ	1
	伝記	1
社会	調べ学習	14
	日本の伝統文化	2
	昔の暮らし	1
	米づくり	1
理科	植物調べ	5
生活科	生きものさがし	4
図工	読書感想画	2
家庭科		2
総合的な学習の時間	調べ学習	12
	読書感想文の選書	3
	調べ学習	3
	調べ方・まとめ方	3
	ユニバーサルデザイン	1

教科	具体例	学校数
図書の時間		1
分類		1
図書館の配置		1
討論		1
読み聞かせ		1

学校図書館を活用した授業を実施している学校は、41%である。具体的には、国語、社会、総合的な学習の時間などが多い。連携しやすい教科と連携が難しい教科があるのかもしれない。

#### 4.11 学級における本を使った授業について (質問17・18)の調査結果と考察

##### 1 質問の趣旨

学校図書館で授業を行うだけでなく、学級において、各教科等で本を使った授業も求められている。

##### 2 回答の傾向と考察

	ある	ない	無回答
率(%)	68	16	16



教科	学校数
国語	58
社会	48
総合的な学習の時間	41
理科	17
生活科	8
図画工作	5
平和学習	4
道徳	3
外国語	2
家庭	2
人権学習	1

学級において、各教科等で本を使った授業が68%の小学校で実施されている。質問16と同様に、国語、社会、総合的な学習の時間、理科、生活科、図画工作という教科で、教科に広がりが見られる。

#### 4.12 学校図書館に設置している資料について (質問19・20)の調査結果と考察

##### 1 質問の趣旨

学校図書館で本や資料を使って授業を実施するには、授業で使うパンフレットやモデルとなるなどの資料、モデルとなる児童の作文などの作品集等を普段から用意しておく必要がある。

##### 2 回答の傾向と考察

##### 【質問19 パンフレットやモデルとなる資料集】

	ある	ない	無回答
率(%)	25	66	9

##### 【質問20 児童の作文などモデルとなる作品集】

	ある	ない	無回答
率(%)	41	49	10

児童の作文などは約半数の学校が展示などしている。日頃から学校図書館に本だけではなく多様なテキストをストックしてはどうだろうか。

#### 4.13 学校図書館と授業との連携についての課題について (質問21)

##### 1 質問の趣旨

学校図書館と授業との連携において、どのようなことが課題かを問うた。

##### 2 回答の傾向と考察

課題	学校数
予算が少ないため、本が少ない	14
担任との打ち合わせができない	10
職員との共通理解が必要である	5
授業ですぐ使えるように図書館を整備する	4
授業内容がわからない	3
教師の意識改革が必要である	3
司書教諭の常駐が必要である	2
人手が不足している	2
臨時ではなく本職にして欲しい	1
担任との連携が必要である	1
児童のモデルを置くなど図書館も変わっていくことが求められている	1
授業で活用しやすいように本をまとめておく	1

課題	学校数
情報を共有して先生たちとお互いを高め合う	1
来年度からの選書をどうするか	1
本を教室に持っていかれると困る	1
コーナーが作りづらい	1
担任への情報提供が難しい	1
担任が忙しい	1
読書量の差がある	1
取り入れるには授業時数が足りない	1
年間計画が必要である	1
モデルとなる資料を置く	1
本を使っての調べ学習をして欲しい	1
司書の資質向上が必要である	1
学校図書館が狭い	1
いつも同じ学年だけしか使わない	1
役立つ本があることを知ってもらう	1
蔵書の偏りがある	1

課題として、大きくは次の4つに整理することができる。

- 予算が不足している。
- 教師の意識改革と教職員との共通理解が不十分である。
- 人材を確保して欲しい。
- 教育課程についての情報が不足している。

## 5 中学校・高等学校（特別支援学校を含む）における学校図書館と授業との連携についての調査の結果と考察

### 5.1 学校図書館の運営方針について（質問1）の調査結果と考察

#### 1 回答の傾向と考察（数字は率(%)）

	作成している	作成していない	無回答
中学校	46	44	10
高等学校	57	39	4

授業との関連で運営方針を立てている学校は、中学校や高等学校では約半数であり、多かった。中学校では令和3年度、高等学校では令和4年度が新学習指導要領の全面実施である。それに向かって準備を整えたらどうだろうか。

### 5.2 学校図書館におけるスペースについて（質問2）の調査結果と考察

#### 1 回答の傾向と考察（数字は率(%)）

	スペースを設けている	スペースを設けていない	無回答
中学校	56	42	2
高等学校	61	39	0

スペースを設けている学校は、約6割程度であり、よく工夫をされている。中学校及び高等学校はより専門的なことを学習するので、目的別にスペースを設けた方が授業しやすいのではないかと思う。

### 5.3 書架について（質問3・4）の調査結果と考察

#### 5.3.1 書架の配置について（質問3）の調査結果と考察

##### 1 回答の傾向と考察（数字は率(%)）

	捜しやすい配置にしている	捜しやすい配置にしていない	無回答
中学校	76	16	8
高等学校	61	39	0

7割程度の学校が、授業で本を探しやすい書架の配置になっていると答えており、従前からの配置に固執することなく授業に対応できるように柔軟に変更されている。

#### 5.3.2 書架の番号について（質問4）の調査結果と考察

##### 1 回答の傾向と考察（数字は率(%)）

	付けている	付けていない	無回答
中学校	68	30	2
高等学校	61	39	0

約6割程度の学校が書架の棚に番号を付けている。生徒に検索力を付けるためだろう。

### 5.4 本の配置について（質問5・6）の調査結果と考察

#### 5.4.1 本の配置（質問5）についての調査結

## 果と考察

### 1 回答の傾向と考察（数字は率(%)）

	NDCのみ	NDC+コーナー	無回答
中学校	12	88	0
高等学校	17	83	0

NDCとコーナーで本を配置している学校は8割以上もあった。生徒の実態に応じて、コーナーを設けている学校が多い。

### 5.4.2 コーナー（質問6）についての調査結果と考察

#### 果と考察

### 1 回答の傾向と考察（数字は率(%)）

	中学校	高等学校
新刊図書案内コーナー	88	83
テーマ別コーナー	58	48
郷土に関するコーナー	56	43
著者別コーナー	22	48
学校独自のコーナー	8	26
学年別コーナー	12	4
グレード別コーナー	0	0

やはり一番多いコーナーは新刊図書案内コーナーである。これら以外では、中学校では寄贈コーナー、授業関連コーナー、戦争コーナー、災害コーナー、生徒図書委員コーナーが挙げられている。高等学校においては、総合的な学習の時間のテーマのコーナーや生徒が興味を持って調べている特設コーナーなどが挙げられる。生徒の発達段階や学習内容に応じてコーナーを設けている。

### 5.5 ブックトラックについて（質問7）の調査結果と考察

### 1 回答の傾向と考察（数字は率(%)）

	ブックトラックがある	ブックトラックがない	無回答
中学校	66	30	4
高等学校	43	57	0

約半数の学校にブックトラックがある。ブックトラックがあると本の移送に便利ではないか。

### 5.6 学校図書館の掲示物について（質問8）の調査結果と考察

### 1 回答の傾向と考察（数字は率(%)）

	中学校	高等学校
図書館の利用の仕方	86	65
学習に関するポスター	22	9
生徒の作品	14	9
本の読み方	18	0
学習の進め方	4	0

一番多かったのは図書館の利用の仕方である。学習に関するポスターや生徒の作品も掲示されている。各教科等で授業に必要なものを掲示することも考えられる。

### 5.7 パソコンの設置について（質問9・10）の調査結果と考察

### 1 回答の傾向と考察（数字は率(%)）

	設置されている	設置されていない	無回答
中学校	20	80	0
高等学校	43	57	0

設置されていない中学校が80%である。しかし、この中にはパソコン室にパソコン常設されているためという回答も含まれている。設置されている中学校では、1台が7校、3台が1校、40台は2校である。高等学校においては、1台が7校、2台が1校であった。パソコン室に常設されているものの数台は学校図書館に常設し、ネットと本の両方で調べるというようにしてはどうだろうか。

では、パソコンはどのように使われているのかという次の表の通りである。

	中学校	高等学校
図書管理（貸出含）	14	43
図書検索	10	26
情報検索	6	13
生徒の作品	14	9
掲示板	0	0

一番多いのは、図書管理である。図書検索や情報検索は少なかった。情報検索は、パソコン室でということであろう。

## 5.8 学校図書館と授業との連携について（質問11・12・13）の調査結果と考察

### 5.8.1 学校図書館と授業との連携で関わっている人について（質問11）の調査結果と考察

#### 1 回答の傾向と考察（数字は率（%））

	中学校	高等学校
図書委員	82	61
学校司書	70	35
図書主任	30	48
情報教育担当教員	28	0
司書教諭	2	9
ボランティア	2	0
その他	4	4

小学校と違って、中学校、高等学校において一番関わっているのは、図書委員である。発達段階から考えると妥当である。中学校では、学校司書が次に多い。高等学校では、図書主任が次である。その他では、中学校では教科担当者、国語科教員である。高等学校では、担任や教務が挙げられている。ただ、両校種ともボランティアが少ないのは残念である。

### 5.8.2 学校図書館と授業との連携で関わっている人との連携について（質問12・13）の調査結果と考察

#### 1 回答の傾向と考察（数字は率（%））

	取っている	取っていない	無回答
中学校	74	12	14
高等学校	48	17	35



中学校 具体例	学校数
連絡を密にして話し合いを多くする	7
授業で使う図書の準備をする	6
選書をする	3

中学校 具体例	学校数
どの授業でいつ図書館を利用するのかの話し合いをする	3
相談をする	2
教科で利用できそうな本の選書をする	1
イベントの連絡をする	1
月に1回はその月の取組を考える	1
イベントへの参加をする	1
委員会をする	1
授業での使い方を話し合う	1
本の購入をする	1
読み聞かせていろいろな立場の人と連携をとる	1
地域の図書館からの貸し出しをする	1
授業で使う辞典などの貸し出しをする	1
専門委員会での話し合いをする	1

高等学校 具体例	学校数
館内利用の有無を確認する	1
授業をされる先生との打ち合わせをする	1
5W1Hを確認する	1
選書をする	1
特集コーナーの設置をする	1
図書館に司書と図書主任が常駐しているので情報共有がやすく、授業に活用できる図書を購入してもらったり、選書してもらったりしている	1
読み聞かせの本を電子黒板に写せるように要望している	1
読み聞かせの本に使えるマルチメディアDAISY図書のPRをする	1

質問11で連携しているものの中で、連携の方法を問うた。連携を取っていると答えたのは、中学校では74%。高等学校では48%である。中学校が高等学校より高かった。具体例としては、話し合い、授業の準備、選書等である。

### 5.9 学校図書館の年間指導計画について（質問14）の調査結果と考察

#### 1 回答の傾向と考察（数字は率（%））

	ある	ない	無回答
中学校	6	86	8
高等学校	0	83	17

各教科等の年間指導計画に学校図書館との関

連を記載している学校はわずかである。新学習指導要領全面実施に合わせて是非作成してもらいたい。

## 5.10 学校図書館を活用した授業について（質問15・16）の調査結果と考察

### 1 回答の傾向と考察（数字は率(%)）

	ある	ない	無回答
中学校	70	20	10
高等学校	39	44	17



中学校 教科	具体例	学校数
国語	辞書調べ	5
	調べ学習	5
	読書感想文の書き方	4
	古典	2
	プレゼンテーション	1
	俳句	1
	レポート作成	1
社会	郷土調べ	3
	調べ学習	2
	外国調べ	1
	戦争調べ	1
	レポート作成	1
理科	自由研究の題材探し	1
	調べ学習	1
美術	デザイン・感想画	3
総合的な学習の時間	調べ学習	9
英語	辞書調べ	1
修学旅行の調べ学習		3
図書館オリエンテーション		1
テーマについて		1
読書感想文の本探し		1
レポートへのまとめ		1

高等学校教科	具体例	学校数
国語	かるたの授業	1
	調べ学習	1
	図書館の使い方	1
	読みたい本探し	1
美術	工芸作品の画集を使った調べもの	1
	読書感想画の題材探し	1

高等学校教科	具体例	学校数
総合的な学習の時間	調べ学習	1
英語	リスニング・スピーチ	1
自習学習		1
調べ学習		1
修学旅行先調べ		1

学校図書館を活用した授業を実施している中学校は、70%、高等学校は39%である。具体的には、国語、社会、美術、総合的な学習の時間などが多く、本を活用しなければ解決できないという内容で使われていることが多いようだ。

## 5.11 学級における本を使った授業について（質問17・18）の調査結果と考察

### 1 回答の傾向と考察（数字は率(%)）

	ある	ない	無回答
中学校	42	48	10
高等学校	13	70	17



教科	中学校	高等学校
国語	15	2
社会	7	2
総合的な学習の時間	5	0
美術	2	0
道徳	2	0
英語	2	1
家庭	1	0
読書指導	1	0
工業	0	1

学級において、本を使った授業を行っている中学校は42%。高等学校は13%である。質問16と同様に、国語、社会、総合的な学習の時間等である。

## 5.12 学校図書館に設置している資料について（質問19・20）の調査結果と考察

### 1 回答の傾向と考察（数字は率(%)）

【質問19 パンフレットやモデルとなる資料集】

	ある	ない	無回答
中学校	30	62	8
高等学校	9	74	17

【質問20 生徒の作文などモデルとなる作品集】

	ある	ない	無回答
中学校	54	42	4
高等学校	17	66	17

生徒の作文などは、特に、中学校では半数の学校でストックされている。高等学校ではモデルとなるものが少ないようだ。これは学習内容が多岐になるからであろう。

### 5.13 学校図書館と授業との連携についての課題について（質問21）

#### 1 回答の傾向と考察

中学校 課題	学校数
先生との連絡を密にする	5
余裕がない	2
全職員へ浸透をする	2
もっと授業を図書館で行う回数を増やす	2
連携のカリキュラムを作る	1
予算がないので本を購入できない	1
最近の情報が載った資料が不足している	1
独立している	1
蔵書量が少ない	1
パソコン室が別にあるので両立しない	1
各教科の授業と図書館の連携についてモデルが示されない	1
国語以外で使用されない	1
新しさが無い	1
情報量が少ない	1
各教科との連携が難しい	1
授業で対応する資料がない	1
授業で調べ学習する時間がない	1
各教科で作った作品を展示してこんなに充実した授業ができるのかと感じてもらえるようにする	1
司書1人では限界がある	1
こんな本があると共有されない	1
授業時数に余裕がない	1
各教科で活用するにはその分野の本が揃っていないと活用は難しい	1

授業の進み具合がわからない	1
市の図書館からの貸し出しの際に運送業者に依頼ができなくなり、自分が何十冊もの本を運ばなければならない	1
図書館を広くしてほしい	1

高等学校 課題	学校数
連携を始めるところから	1
新しい本を入れて古い本を除籍する	1
高校の授業が系列になっているのでそれを上手に活用できるやり方や選書のヒントになるものがあればよい	1
科目の専門性が高くなるので図書館を使って授業のテーマが設定しにくい	1
専門性のある司書を配置する	1
時数が少ない	1
資料探索のノウハウがない	1
本を読む意義を生徒や教師にも伝える	1
人員が不足している（授業しながら図書館の業務は無理）	1

中学校及び高等学校の課題として、大きくは次の3つに整理できる。

- 学校司書と教職員との共通理解が不十分である。
- 授業を学校図書館において実施して欲しい。
- 科目が専門的になるので、学校図書館を活用しての授業が難しい。

### 6 学校図書館と小学校、中学校及び高等学校における各教科等の授業との連携に関する調査の総括

令和元年度佐賀県学校図書館夏季合同研修会参加者に対する学校図書館と小学校、中学校及び高等学校における各教科等の授業との連携に関する調査を行った。その結果をまとめると次のようなことである。

(1) 学校図書館と授業との連携についての運営方針を立案している学校はほぼ半数である。新学習指導要領の全面実施に向けて、方針を見直す機会としてはどうだろうか。

(2) 学校図書館と授業と連携を行いやすいようなスペース、コーナー、ブックトラック等の

設置をしている学校はほぼ半数であり、各学校が努力していることが伺える。

(3) 多くの学校では、学校図書館ではなく、パソコン室にパソコンが設置されている。

(4) 人的な連携においては、小学校では学校司書や司書教諭等が多く、中学校や高等学校では図書委員会との連携が多かった。これは、発達段階の違いからであろう。

(5) 学校図書館を活用した授業においては、国語、社会、総合的な学習の時間が多く、本や資料などを活用できる教科やそれらを活用して課題解決ができる教科と考えられる。

(6) 学校図書館と授業との連携の課題は、教師間の共通理解、予算や人材の確保が主である。これは学校だけでは解決できず、行政の協力体制などが必要である。

## 7 引用文献

- 1) 学校図書館法 (昭和28年)
- 2) 学校図書館の一部改正 (平成9年)
- 3) 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画 (平成14年)
- 4) これからの学校図書館の整備充実について (報告) (平成28年)
- 5) 学校図書館の整備充実について (通知) (平成28年)
- 6) 学習指導要領 (平成29年度版)
- 7) 学校図書館整備施策に関するアンケート (2019年)
- 8) 磯部延之、内海淳、小林功、小日向輝代、五月女保幸、千葉尊子、山田万紀恵、第65回学校読書調査報告、学校図書館、2019年、第829号、11月号、pp16～pp53
- 9) 守屋明美、小林達也、栗原浩美、福満芳枝、岩元カオリ「学校図書館を授業で活用しよう」、学校図書館、2019年4月、第882号、pp16-pp41
- 10) 小川三和子 (2010年)「新しい教育をつくる司書教諭のしごと 第II期◆2 教科学習に活用する学校図書館 小学校・探求型学習をめざす実践事例」、社団法人全国学校図書館協議会、pp29～pp32
- 11) 全国学校図書館協議会北欧学校図書館研究視察団 (2007)「北欧に見る学校図書館の活用」、社団法人全国学校図書館協議会、pp22～pp121
- 12) 全国学校図書館協議会オーストラリア学校図書館研究視察団 (2011年)「オーストラリアに見るコミュニケーション力を培う学校図書館」、社団法人全国学校図書館協議会、pp20～pp139
- 13) 井上一郎 (2013年)「思考力・読解力アップの新空間!学校図書館改造プロジェクト 図書館フル活用の教科別授業アイデア20」、明治図書、pp6～pp15
- 14) 注13と同様。pp12-15

## 8 参考文献

- 1) 学習指導要領 (平成20年度版)
- 2) 井上一郎 (2005年)「『読解力』を伸ばす読書活動—カリキュラムづくりと授業づくり」、明治図書
- 3) 井上一郎・古川 元視 (2017年)「アクティブ・ラーニングをサポートする!学校図書館活用プロジェクト 掲示ポスター&ポイントシート事典」、明治図書
- 4) 関口礼子 (1999年)「学校図書館が教育を変える カナダの実践から学ぶもの」、社団法人全国学校図書館協議会
- 5) 堀川照代 (2010年)「新訂 学習指導と学校図書館」、財団法人 放送大学教育振興会
- 6) 門脇久美子・実重和美・漆谷成子・堀川照代「学校図書館は何ができるのか?その可能性に迫る 小・中・高等学校の学校司書3人の仕事から学ぶ」、国土社
- 7) 増田信一 (2006年)「21世紀型授業づくり122 豊かな人間性を育てる読書活動と図書館の活用」、明治図書
- 8) 堀川照代・川西由美子・斎藤陽子・東海林典子・福永智子・山内祐平「司書教諭テキストシリーズ 03 学習指導と学校図書館」、樹村房
- 9) 下村陽子・堀川照代 (1999年)「学校図書館 実践テキストシリーズ4 学習指導と学校図書館」、樹村房
- 10) 日本学校図書館学会学校図書館研究会 (2013年)「学校図書館を活用した学習指導実践事例集」、教育開発研究所

付記1：実際の調査は、令和元年度佐賀県学校図書館夏季合同研修会の参加者に依頼をした。御協力いただいた先生方に、ここに記して感謝申し上げます。